



文庫

孫
彦元坊撰

中村俊定文庫
文庫 18
215
3





詩音

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a poem or a list of characters with phonetic annotations.

Small vertical text on the left margin.



Handwritten text on the right page, including a circular stamp and the characters '汗病' and '求之'.



甘き初やましのものゝまはるにせ 扇得

神とあふらふ。神在るに。いへん。いへん。いへん。
里紅とよと。その原るすの。道徳と
く。いへん。いへん。いへん。いへん。いへん。
いへん。いへん。いへん。いへん。いへん。

まはるのまはるにまはるにまはるに 隻前

いへん。いへん。いへん。いへん。いへん。
いへん。いへん。いへん。いへん。いへん。
いへん。いへん。いへん。いへん。いへん。
いへん。いへん。いへん。いへん。いへん。
いへん。いへん。いへん。いへん。いへん。

まはるのまはるにまはるにまはるに 権解

回不南教の陣中

いへん。いへん。いへん。いへん。いへん。
いへん。いへん。いへん。いへん。いへん。

日福のいへん。いへん。いへん。いへん。 夏柳

里紅とよと。その原るすの。道徳と
く。いへん。いへん。いへん。いへん。いへん。

まはるのまはるにまはるにまはるに 里畦

月夜の清き一柳子居る師七之徳と
まわりの清き一柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と

清き一柳子居る師七之徳と

清き一柳子居る師七之徳と 柳根

柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と
清き一柳子居る師七之徳と

清き一柳子居る師七之徳と

清き一柳子居る師七之徳と 行脚僧
柳枝

月もくや籠の垣よりむじ枝 東吉

小窓の移しねりのゆれ 拂園

春入の櫛、旅よ、春情のこゝろ 南室

二年しけしる意のこゝろ 六詩

ねるこゝろ、春情のこゝろ 鹿桃

春のゆあけて春のこゝろ 有文

まゐのこゝろ、春情のこゝろ 南室

刀ささのこゝろ、春情のこゝろ 其々

路の色のゆれ後のこゝろ 八川

ゆれよ、春情のこゝろ、春情のこゝろ 是舟

こゝろのこゝろ、春情のこゝろ 心橋

まゐのこゝろ、春情のこゝろ 赤萩

春情のこゝろ、春情のこゝろ 松本

あゝ、春情のこゝろ、春情のこゝろ 女 里香

あゝ人のこゝろ、春情のこゝろ 雨棉

二月 七日 春情のこゝろ 純 純子

保徳いさゝか果敢あり 九雄

くさくさぬえとまふのつら 其右

可一筆よくたぬ思 楚弓

ハチのそととこまへふね 其鶴

くねはつける内表る姓 其方

地中とわぬ隣の川邊 雄乎

ゆるくゆるゆるの竹よ 山帝

川流を牛馬も時の代り 穆士

劫を相撲も寺の蓮立 可哉

月よ思ふあふみの 其國府 強其

ちとんと席向とどろき 琉石

投こまの儘よりまゝ 九候

車もまゝよるまぬ 柳理

頃鏡をぬよらふよ 巳千

かたよおもそのむき 柳 梭白

胸よこの日永と包む 南津

あかつゝきりあふも 子川

けさけし梅の園やこけしけし
 桃理
 ろももも入るこけしけし
 琥珀石
 ろももこけしのさやこけしけし
 接白
 ちりけしのさやけしけしけし
 雄手
 こけしけしけしけしけしけし
 南津
 しりけしけしけしけしけし
 山市
 ちりけしけしのさやけしけし
 月宮
 ろももこけしけしけしけし
 下宮
 鶴亭

鳥の連中一

鳥の連中一
 略録連中幸村三願園縁新巻
 くる台十題

鳥の連中

ろももこけしけしけしけし

鳥の連中

弱くのあやこけしけしけし
 中一の末
 杜花

五月百会

慈くふ級をくよよめたる会 鳥野

持多百会

あゝなる用の松で持多なり 白洲

藤戸百会

松の葉の通しを飾たる会 ト通

無百会

無百会下 神々々々なる末の夜 白糸

麻子百会

伝ふてたての 麻子 麻又

玉可百会

花を花と花く 玉可 一空

維百会

廊一も方え 維 一西

玉百会

十八の月 玉 白推

尾張

名古屋千鳥屋連中

る草の種とよむやるけり
以誰
いふくし入梅さぬ
るけり
丁敷
る日よる色ゆ
ちのれえ
和碩
敷きよ
きしうつとるけり
竹田
初めのる味さかふる
能登子
息中

る合のきよ
袂さるるやるけり
た
るけり
さ
や
る
けり
さ
の
む
以
え

洛陽

栞後園連中

橘の神
は
ら
る
けり
百河

る
けり
さ
の
む
以
え
る
けり
さ
の
む
以
え

香山法寺

法寺の境内にありては、
山中と稱す。法佛の塔の
一石額と牌ありて、
法寺の法とありて

法寺の境内にありては

あぢりし心所上の長あぢり 夢明
上月の録のゆくあり 六巻

諸國文通

あぢりし心所上の長あぢり 夢明
上月の録のゆくあり 六巻
あぢりし心所上の長あぢり 夢明
上月の録のゆくあり 六巻
あぢりし心所上の長あぢり 夢明
上月の録のゆくあり 六巻

あぢりし心所上の長あぢり 夢明
上月の録のゆくあり 六巻
あぢりし心所上の長あぢり 夢明
上月の録のゆくあり 六巻
あぢりし心所上の長あぢり 夢明
上月の録のゆくあり 六巻
あぢりし心所上の長あぢり 夢明
上月の録のゆくあり 六巻
あぢりし心所上の長あぢり 夢明
上月の録のゆくあり 六巻

けせうしあせせうせいのうまゆくの
和歌

ゆきりきりしゆきりきりしゆきりきり
越中ノ嶋

ちきりきりしゆきりきりしゆきりきり
越中ノ嶋

ゆきりきりしゆきりきりしゆきりきり
北原

ゆきりきりしゆきりきりしゆきりきり
貞虎

ゆきりきりしゆきりきりしゆきりきり
大和

ゆきりきりしゆきりきりしゆきりきり
茂林

ゆきりきりしゆきりきりしゆきりきり
省之

ゆきりきりしゆきりきりしゆきりきり
和歌

ゆきりきりしゆきりきりしゆきりきり
後岐

ゆきりきりしゆきりきりしゆきりきり
百舌坊

ゆきりきりしゆきりきりしゆきりきり
後新福坊

ゆきりきりしゆきりきりしゆきりきり
杏雨

ゆきりきりしゆきりきりしゆきりきり
肥後守七

ゆきりきりしゆきりきりしゆきりきり
乙諸

ゆきりきりしゆきりきりしゆきりきり
巴竿

ゆきりきりしゆきりきりしゆきりきり
原南

和歌

和歌

和歌

らる所のまゝのまゝなり不致のふ
既月より一りもさるるをあらわす
後より一りもさるる

後より一りもさるるのまゝなり
二明

一月より一りもさるるのまゝなり
二明

二神より一りもさるるのまゝなり
二明

文星観の梓行よ

名跡をおとす

橋本よ杉ぬらりるるを橋本併 橋本

又星よ橋の名跡をおとす 橋本

享保十七壬子臘月日

蕉門書林 橋屋治兵衛梓行

文星

二

